

## 令和元年度 抵抗加熱技術部会見学会 株式会社井関熊本製造所 見学記

- 1.日 時：令和元年10月24日（木） 14時40分～16時
- 2.見学場所：株式会社井関熊本製造所
- 3.説明者：総務部 福田 敬史 様 他
- 4.出席者：11名（事務局含む）
- 5.概要

翌日の熊本駅前での抵抗加熱技術部会に先立って前日の午後に熊本入りし、株式会社井関熊本製造所（以下熊本製造所）を訪問した。

熊本空港に集合したが、熊本製造所は空港に近いこともあり、空港で早くもISEKIの展示コーナーを見つけた。そして、委員集合後マイクロバスで熊本製造所に向かった。

到着後「ISEKI Dream Gallery KUMAMOTO」という表示がある展示館に案内していただき、会社の説明などをしていただいた。

井関農機は大正15年井関邦三郎氏によって設立された。氏は宇和島の農家で「農家の方を過酷な労働から解放したい」という強い意志の下、農機具の開発・製造・販売を始めたという。この創立の理念は脈々と受け継がれており、農機具の開発は勿論、「夢ある農業女子応援プロジェクト」を推進したりと、食を支える農家の発展に貢献している。

ここ熊本製造所ではコンバインを製造しており、他に新潟事業所では田植え機を、愛媛事業所ではトラクターや耕運機を製造している。熊本製造所の所在地は益城町。3年前の熊本地震の震源地から半径1km以内で、人身災害は無かったものの工場内も大変なことになり、10億円を超える大きな被害だったとのこと。設備などは既に復旧しているが、床コンクリートには地震時にできた亀裂が残っているとの説明だった。

熊本製造所で製造しているコンバインについて。井関農機は1916年に世界初の自脱型コンバイン（フロンティアHD-50）を世に送り出した。現在では、最も大型なもので100馬力を超える7条刈りコンバイン以下、多種多様なコンバインを揃えている。

展示館には115馬力6条刈りのモデル（HJ6115）が展示されていて、運転席に座りゴーグルを装着すると、VR（Virtual Reality:仮想現実）を使って毎秒2mの速度での6条の刈り取りが体験できた。かなり高速で迫力のあるものであった。テクノロジーコーナーには大変長いもみ排出装置や、前後左右あるいはその場ターンの動きをするためのミッションのモデルなどが展示されており興味深かった。展示の中の掲示に「日本一」とあったが、これは特許査定率が日本一ということで、これだけのメカ品を生み出すならばそうなるのかなと思った。また、農業女子応援プロジェクトとのコラボレーションで開発した女性の要望を取り入れた製品（ちょっとした日除けを付ける、小柄でも操作しやすいなど）の展示もあった。

説明を受けた後、工場内を案内していただいた。生産しているコンバインは1万2千点もの部品で構成されており、この数は自動車と比べようのない多さということで、そのため、「自動ライン」のようにはしていないとのことであった。工場に入ると多くのクローラーを置いた棚があった。これらはオーダーメイドとのこと。エンジンは井関松山など他工場から調達しているとのこと。それ以外のミッションや構造部品は内部で製造している。24時間自動ブランキング装置や溶接ロボットが見受けられ、ブランキング後の抜き加工には三次元レーザー加工機も使われていた。1日に12から15台を生産しており、年間で約2,000台の生産ということである。

委員一同改めて井関のコンバインがメカの塊であり、創始の理念のもとに蓄積された技術の結晶であると、感銘を受けた。

工場の見学を終え「ISEKI Dream Gallery KUMAMOTO」に戻り質疑応答をさせていただいた後、御礼を申し上げて熊本製造所を後にした。



写真1 空港の ISEKI コーナー



写真2 井関邦三郎氏



写真3 展示場での説明



写真4 HJ6115



写真5 農業女子コラボ製品



写真6 HJ6115の前で